

つくばスーパーサイエンスシティ構想



実施地域	茨城県つくば市
実施団体	つくば市、大学・国立研究機関、民間企業等

対象
都市課題

対象地域の特徴・課題・目標 (目指すスマートシティ像)

つくば市の特徴

人口 年間約3,500人増
246,913 人
114,620 世帯

面積
283.72 km²

科学のまち
150の研究機関
20,000人の研究関係者
8,000人の博士号取得者

問題 (現状)

都市と郊外の二極化

- 周辺部における移動手段の不足
- 駅周辺における賑わいの低下
- 周辺部の衰退に伴う買物難民 等

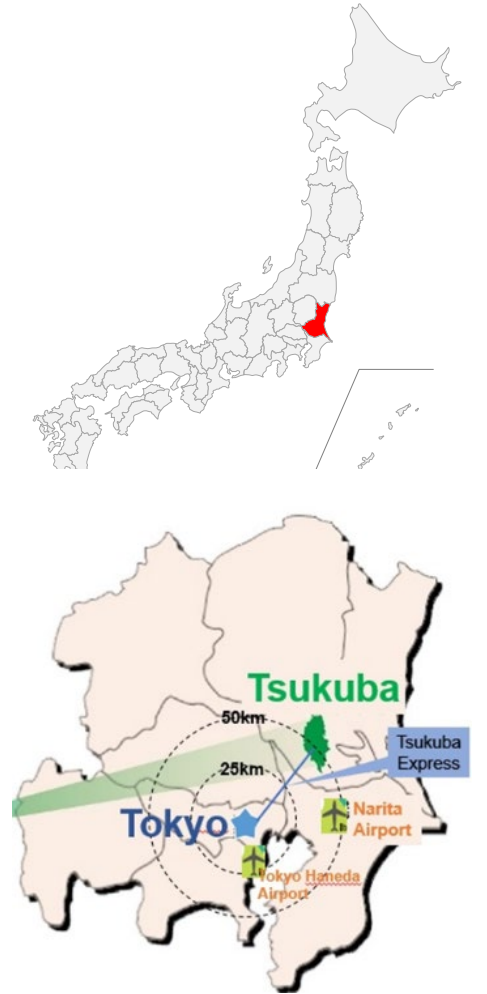
多文化共生の不備

- 既存住民と転入住民のかい離
- 高齢者、障害者、子育て世代、外国人、生活困窮世帯等が生活に不都合 (住民への行政情報提供不足) 等

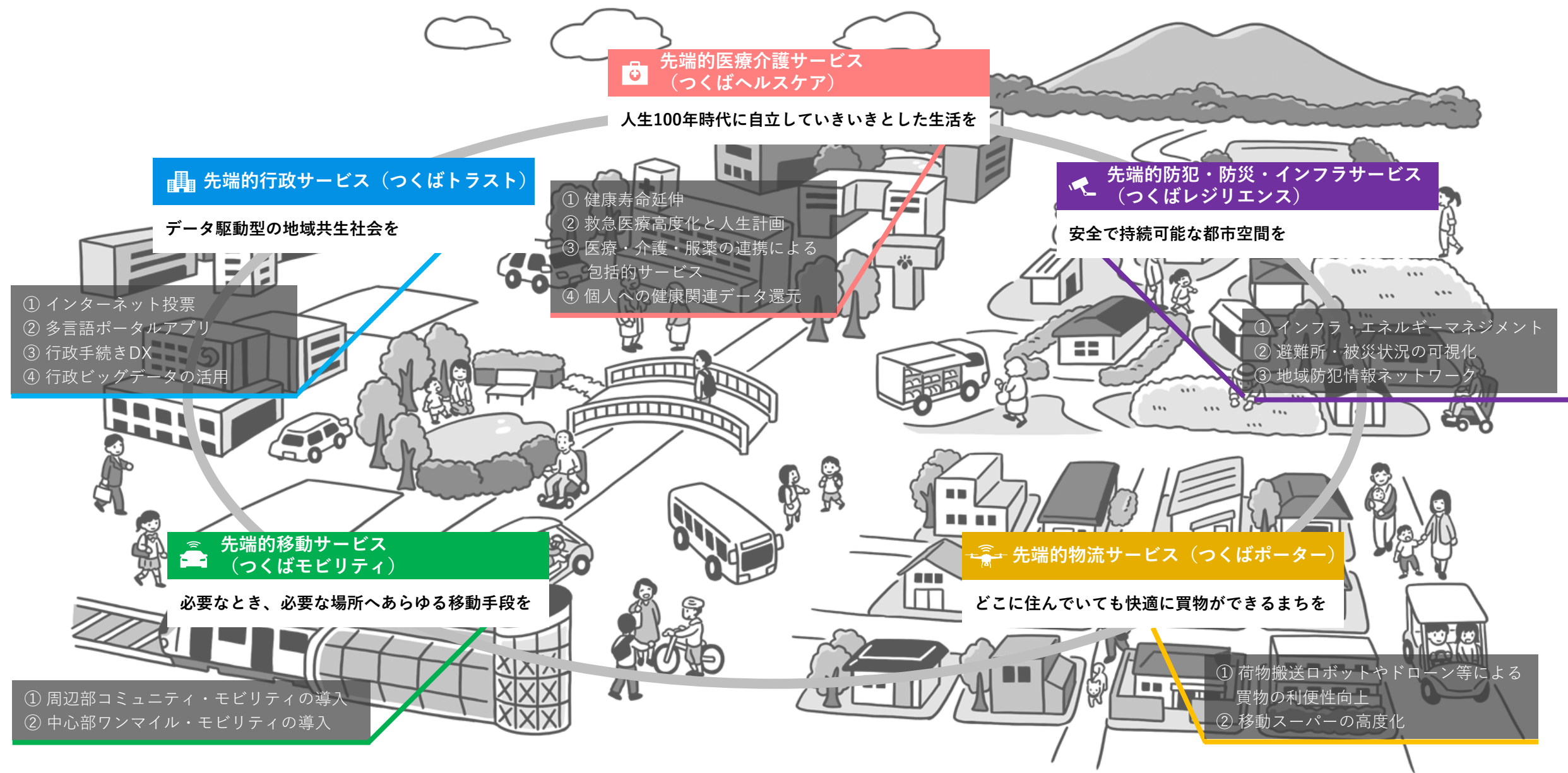
都市力の低下

- インフラの一斉老朽化とそれに伴う集中した更新時期
- 災害への備えの不足
- 犯罪件数の高止まり

目指す姿



◇ 技術・データを活用した都市・地域の課題解決への取組み

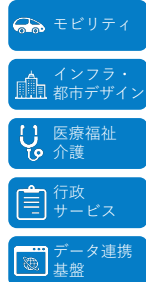


◇ 実施体制図

市長を本部長とする「つくば市スマートシティ推進本部」が推進役となり、つくばスマートシティ協議会、公募で選定した連携事業者、その他連携機関と緊密な連携・協力関係を構築のもと、構想実現に向けて全庁横断的に取組む

つくばスマートシティ協議会

各分野の課題解決に貢献する技術・サービスを保有する会員で構成



連携



連携



全体構想

スーパーシティ全体の構想に対する参画

実証現場

スマートキャンパス

産官学連携

未来都市プロジェクト

連携機関

連携事業者

連携事業者 (50機関)

連携して構想の実現に向けて取り組む事業者を公募、国立研究機関、大手製造業等を含む50機関と連携

国立研究開発法人、国立大学法人等の研究機関、一般社団法人日本経済団体連合会、株式会社日本政策投資銀行 ほか

◇ プロジェクトのスケジュール

STEP1

2019年～2024年

住民意向の確認（住民説明会、住民投票等）
先端的サービスの制度設計、インフラ整備
データ連携基盤の整備

STEP2

～2026年頃

先端的サービスのインフラ整備、サービス実証

STEP3

～2030年

先端的サービスの社会実装

◇ その他（受賞歴、政府が進めるスマートシティ事業への選定 等）

- S D G S 未来都市に選定（平成30年6月）
- 国土交通省「新モビリティサービス推進事業」の「先行モデル事業」として採択
- 国土交通省「スマートシティモデル事業」の先行モデルプロジェクトとして採択（過去の採択：令和元年、令和元年補正、令和2年、令和2年補正、令和3年）



顔認証によるバスの乗降



自動運転